

平成12年7月4日

平成13年2月期 第1四半期の業績等の概況

上場会社名 株式会社スギ薬局
 (コード番号 7649)
 本店所在地 愛知県安城市二本木町二ツ池33-5
 問合せ先 責任者役職名 取締役副社長管理本部長
 氏名 杉浦 昭子
 TEL 0566-73-6300

1 業績

(百万円以下、小数2位以下切り捨て)

(1) 平成13年2月期 第1四半期 (平成12年3月1日～平成12年5月31日) の業績

	13年2月期 第1四半期 (当四半期)	対前年同 期増減率	12年2月期 第1四半期 参考(前年同四半期)	参考 前年(通期)
売上高	8,973 百万円	37.8 %	6,509 百万円	29,249 百万円
営業利益	669	86.8	358	1,697
経常利益	713	83.3	389	1,921

(注) 11年5月期につきましては、四半期決算を実施しておりませんので、月次の累計であり、参考として下さい。

(2) 部門別の売上高内訳

	13年2月期 第1四半期 (当四半期)		対前年同 期増減率	12年2月期 第1四半期 参考(前年同四半期)		参考 前年(通期)	
	金額	構成比		金額	構成比	金額	構成比
	百万円	%	%	百万円	%	百万円	%
調剤薬	397	4.4	44.8	274	4.2	1,257	4.3
ヘルスケア	2,760	30.9	41.8	1,945	30.0	8,918	30.6
ビューティーケア	2,197	24.6	44.3	1,522	23.5	6,861	23.5
ホームケア	2,008	22.5	32.0	1,521	23.5	6,907	23.7
ベビーケア	838	9.4	20.9	692	10.7	2,898	9.9
その他商品	712	7.9	38.5	513	7.9	2,236	7.6
小計	8,913	100.0	37.7	6,470	100.0	29,079	100.0
その他収入	60	-	53.7	39	-	169	-
合計	8,973	-	37.8	6,509	-	29,249	-

(3) 主な資産・負債の変動について

項目	13年2月期 第1四半期 (当四半期)	増減額	前期末
	百万円	百万円	百万円
(資産)			
現金及び預金	4,394	313	4,081
商品	4,040	936	3,104
(負債)			
買掛金	5,680	1,606	4,073
短期借入金	340	340	0
未払法人税等	360	531	892
長期借入金	778	126	904

(注) 当四半期に係る数値について、公認会計士又は監査法人の監査は受けておりません。

2 業績の概況

小売業界全般に、未だ消費動向が回復したとは言いがたい状況が続いております。しかしながら、当社の取扱う商品は、専門性の高い医薬品や化粧品及び、急速に進んでいる医薬分業に対応する処方箋調剤、そして生活必需品であり、景気に左右されにくく、業績を順調に伸ばしてまいりました。そして、当四半期（平成12年3月～平成12年5月）も、6月の株式上場を控え、業績を拡大させてまいりました。

まず、売上増大のための施策を、順次実行しました。具体的には、毎年恒例となっております、「お客様点数お知らせダイレクトメール」、「長島へ行こうキャンペーン」等の固定客重視のキャンペーンセールを行いました。また、4月より恒常的にラジオCMも開始いたしました。これらは、成果の把握が困難ですが、当社の知名度と来店動機の向上に役立っていると、確信しております。

また、新規出店も行い、計3店舗出店できました。このうち4月にオープンしました菰野店に関しましては、本年1月にジャスコ株式会社と業務資本提携を行い、その後、初めて、イオンショッピングセンター内に新店舗があります。そして、この菰野店の売上は順調に推移しており、このようなショッピングセンター内の出店は、今後も増えるものと考えております。

そして、4月12日に兵庫県のタキヤ商事株式会社（平成12年2月期、売上高124億円、店舗数76店のドラッグストア）にジャスコ株式会社とともに資本参加を致しました。数年後の関西方面への出店を視野に入れ、調剤併設型ドラッグストア作りに協力してまいります。一方、イオングループのドラッグストアの規模は、1,100店舗余り、4,000億円の売上まで拡大しており、共同でPB商品の開発を積極的に推進していく計画であります。今後は、ドラッグストア業界も競争の激化が予想され、業務提携等が活発に行われるようになると思われれます。当社といたしましても、今後も自社に有利な機会があれば、積極的に対応してまいります。

（売上高）

売上高は、前年同四半期に比べ2,463百万円、37.8%増加し、過去最高の8,973百万円となりました。そして、来店客数も前年同四半期に比べ、1,065千人、37.2%増加し、過去最高の3,922千人となりました。売上増の要因としては、既存店の売上高が前年同四半期に比べ16.7%増加したことと、前期オープン店の売上増と、当四半期新規出店の3店舗の売上が増加したことによります。また、部門別では、高収益で専門性の高い主力部門（調剤薬、ヘルスケア、ビューティーケア）の売上の伸びが平均を上回っております。

（売上原価および売上総利益）

売上原価は、調剤薬の原価が4月の薬価改訂により、一時的に若干高くなっておりますが、他部門の原価率は、ほぼ前年同四半期と同様で、売上増に伴い1,788百万円、37.6%の増加となりました。

売上総利益は、前年同四半期に比べ675百万円、38.6%増加し、2,425百万円となりました。これは、売上高の増加に伴い、662百万円増加したことと、利益率が0.14%上がり、13百万円増加したことによります。また、部門別では、主力部門（調剤薬、ヘルスケア、ビューティーケア）の利益率が若干下がったものの、利益率の高い当部門の売上構成比率が上がったことにより全体の利益率を0.14%上げることができました。

（販売費及び一般管理費）

販管費は、前年同四半期に比べ364百万円、26.1%増加し、1,756百万円となりましたが、売上高に対する比率は、前年同四半期の21.3%を、19.5%と1.8%下げることが出来ました。これは、企業規模の拡大に伴い人件費は、33.0%増加したものの、チラシを小冊子「くすりメニュー」に変えることにより、従来のチラシの回数を削減して固定客重視の販促方法をとったことと、地域ドミナント化の強化によりコストを削減したこと等により、販管費、一般管理費については効率化を図り、各々22.8%、18.9%の増加にとどめたことによります。

(営業利益)

営業利益は、売上高が順調に伸びたことを背景に、前年同四半期と比べ311百万円、86.8%増加し669百万円となりました。そして売上高に対する比率は前年同四半期の5.5%から1.9ポイント上げ7.4%に向上いたしました。これは、売上高の大幅な増加と、上記記載のように販管費率を下げることでできたためです。

	13年2月期 第1四半期 (当四半期)	12年2月期 第1四半期 参考(前年同四半期)
営業利益	669百万円	358百万円
営業利益率	7.4%	5.5%

(その他収益および費用)

その他収益に関しましては、雑収入が、前年同四半期に比べ15,011千円増加し、30,640千円となりました。これは、新規店舗の什器受贈益を組み入れたこと(前年同四半期は中間決算で計上)によります。その他費用につきましては、上場に関わる費用として6,354千円発生しているものの、支払利息は借入金の削減により前期の6,152千円から、4,631千円に減少しました。これらの結果、営業外損益は、前年同四半期の30,786千円より43.0%増加し44,042千円となりました。

(当期純利益)

当期純利益は、前年同四半期と比べ146百万円、73.4%増加し、345百万円となりました。その結果、売上高に対する比率は前年同四半期の3.0%から0.8ポイント増加し、3.8%となりました。

(資産、負債、資本)

流動資産は、前期末と比べ1,307百万円、16.8%増加し、9,061百万円となりました。現金及び預金は、前期末と比べ313百万円増加し、4,394百万円となり、商品の在庫は、夏季商品の事前購入分、新店在庫分、上場に伴う売り出し用商品の増加により、前期末と比べ936百万円増加し、4,040百万円となりました。

固定資産は、前期末と比べ、299百万円増加し、3,838百万円となりました。これは、新規出店に伴う、建物、器具備品、差入保証金、及び建設仮勘定の増加とタキヤ商事株式会社に対し、70百万円出資したことによる投資有価証券の増加によります。

流動負債は、前期末と比べ1,394百万円、18.6%増加し、8,868百万円となりました。夏季商品の事前購入、新店分商品仕入、上場に伴う売り出し商品の仕入増により、買掛金が1,606百万円増加し、納税資金として借入れた短期借入金500百万円のうち、340百万円が増加しました。また、納税により未払法人税等と、未払消費税が、合計で642百万円減少しております。

固定負債は、前期末と比べ、117百万円、8.9%減少し、1,196百万円となりました。長期借入金が返済により、126百万円減少しています。

資本の部は、前期末と比べ330百万円、13.1%増加し2,835百万円となりました。また、総資産は前期末と比べ、1,607百万円、14.2%増加し、12,900百万円となりました。

(設備投資)

設備投資額は、有形固定資産235百万円、無形固定資産4百万円、差入保証金90百万円の合計331百万円となりました。そのうち、情報システム関連の設備投資額が7百万円で、新規出店による設備投資額は、183百万円であり、その内訳は下記のとおりです。

開店年月日	店名	属性	金額
平成12年3月24日	長久手店	設備投資額	72百万円
平成12年4月19日	菰野店	設備投資額	60百万円
平成12年5月17日	浄心店	設備投資額	50百万円

(キャッシュフロー)

現金及び現金同等物は、前期末の3,263百万円に対し、346百万円増加し、3,609百万円となりました。営業活動によるキャッシュフローは、472百万円増加しました。これは、棚卸資産の増加により936百万円、法人税の支払いにより890百万円減少するという要因もありますが、税引前当期純利益が704百万円となり、仕入債務が1,606百万円増加するという要因にもよります。投資活動によるキャッシュフローについては、326百万円減少しました。これは、出店費用等による有形固定資産として203百万円、そしてタキヤ商事株式会社に対し70百万円投資を行っているのが、主な原因であります。財務活動によるキャッシュフローについては、198百万円増加しました。これは、納税資金として、340百万円借入金が増加していることが主な原因であります。

3 今期の見通し

第1四半期が経過し、売上高が、予算に対し695百万円、8.4%上回り、8,973百万円となりました。また、経常利益も予算に対し、170百万円、31.2%上回り、713百万円となりました。

今後の見通しといたしましては、6月19日、ナスダック・ジャパン市場への上場を機に、知名度アップを図るとともに出店を加速いたします。今期計画の25店舗出店および売上高39,066百万円は必達できるものと確信しております。

	13年2月期 第1四半期実績 (当四半期実績)	13年2月期 第1四半期予 算 (当四半期予算)	達成率
売上高	8,973百万円	8,277百万円	108.4%
営業利益	669百万円	499百万円	134.0%
経常利益	713百万円	543百万円	131.2%

(注) 以上の当社、予想数値、業績予測は、現在得られている各種情報などから判断した将来情報です。当社の市場における一般的な状況、天候、景気および消費動向の変化、消費者の嗜好変化などによるリスクや不確実性を含んでいます。

4 その他

当社は、6月19日にナスダック・ジャパン市場に上場し、ブックビルディング方式により、1株7,000円で1,000,000株の新株を発行いたしました。これにより、株主資本比率等の財務体質も大幅に改善されました。